



### 3. 分娩期について

分娩場所については助産所85.3%，自宅11.7%，オープンシステム2.8%でした。2019年と比較すると自宅分娩が3.5%増加していました。

分娩所要時間の平均は，初産婦13時間5分，経産婦が5時間54分でした。初産婦で30時間以上を要したのが4.6%，経産婦で15時間以上を要したのが2.1%でした。

分娩時の妊娠週数は39週が最も多く36.6%，次いで40週が34.5%でした。2019年と大きな変化は見られませんでした（図1）。

前期破水は，初産婦15.3%，経産婦10.4%でした。

分娩時の出血量の平均は初産婦374ml，経産婦360mlでした。分娩時の出血量が500ml以上であったのは，初産婦23.9%，経産婦19.9%でした。

産道裂傷は初産婦で，なし46.4%，経産婦で，なし68.3%でした（図2）。

分娩時の立ち会い（複数回答）は，パートナー79.2%，上の子41.7%，その他13.7%でした。

### 4. 出生時

出生時の児体重の平均は男児3144g（±357），女

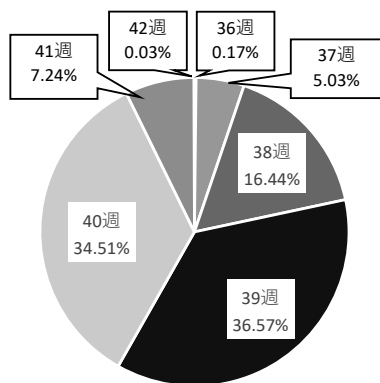


図1 分娩時の妊娠週数

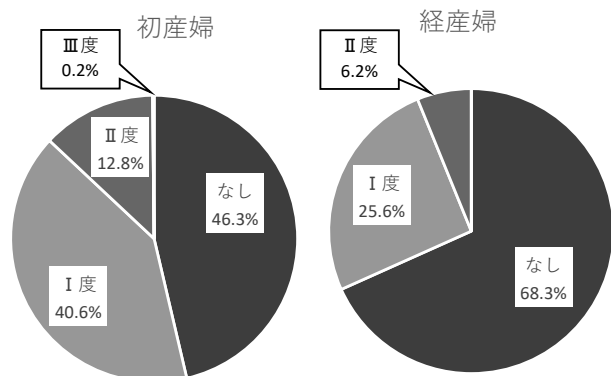


図2 産道裂傷

児3125g（±342）でした。

出生5分後のアプガールスコアは，8点以上が99.9%でした。

### 5. 栄養方法

おおむね1週間時点での児の栄養は，初産婦で母乳のみが62.0%，混合37.4%，人工乳0.4%でした。経産婦で母乳のみが71.4%，混合27.9%，人工乳0.5%でした（図3）。おおむね1か月健診の時点では，初産婦で母乳のみ70.8%，混合26.0%，人工乳3.2%，経産婦では，母乳のみ78.7%，混合19.4%，人工乳1.9%でした（図4）。

## IV. まとめ

新ITシステムが稼働し，初めてのご報告になります。内容も簡素化されました。今後，データを蓄積し，年での比較もできていくことと思います。2019年と比較できる部分では，「自宅分娩数の若干の上昇」「妊娠期の異常と転院有が倍増」「母乳率のみの低下」となりました。自宅分娩はコロナ禍が影響していることが予測されます。妊娠期の異常と転院件数の割合が増加したことについても同様に予測

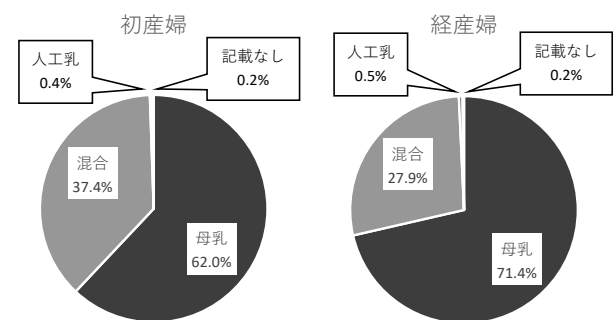


図3 おおむね1週間時点での児の栄養方法

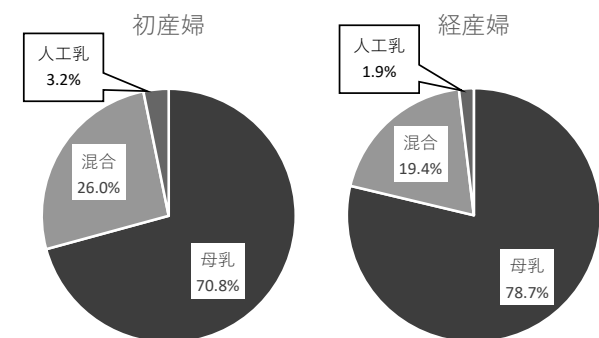


図4 おおむね1か月健診時点での児の栄養方法

できますが、助産所で安全なお産を遂行していくうえで妊娠中の転院が増えることは悲観することではありません。けれども、妊娠中の異常の発生を防ぐために、助産所の皆様が日々実施されていると存じます。それらを研鑽し話し合う場として、今年度の助産所部会集会を展開していく予定です。ぜひ、ご参加ください。「母乳のみ率の低下」はおおむね1週間後（2019年の退院時と比較）、おおむね1か月後とも約3～6%の低下が見られました。それ以外で2019年のデータと比較できる部分では、大きな変化は見

られませんでした。

この集計結果は、HPでもご覧いただけます。  
(<https://www.midwife.or.jp/midwife/safety.html>)

新システム導入後は、分娩基本データについても都道府県ごとに所属会員による集積データの活用が可能になりました。ぜひ、ご活用ください。また、日本助産師会からの情報を確実に得ていただくためにも、メールアドレスの変更をマイページよりお願いいたします。